

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育目標 「自ら未来を切り拓く 心豊かでたくましい人間を育てる」～希望進路の実現を支援する学校づくりをめざして～

教育方針 1, 学力の充実を図り希望進路を実現させる 2, 学校行事・部活動を充実させる 3, 基本的な生活習慣を確立させる 4, 安心できる学校生活を確立させる

2 中期的目標 (R4～R6年度)

1 生徒が夢と志を抱き、希望する進路を実現させるための進路指導の確立

(1) キャリア教育を充実させ、生きる意味、働く意味、学ぶ意味を考えさせ、具体的な夢を描かせる。

3年間の進路指導計画を策定し、生徒が主体的に進路実現できるよう指導する。

※学校教育自己診断 (生徒)「学校で将来の生き方について考える機会がある」の肯定率をR6年度も90%以上を維持する。(R1:89% R2:90% R3:92%)

(2) 将来の夢への入り口となる進学をめざすために、チャレンジする意欲を醸成し、粘り強く取り組む力を養う。

ア 「行ける大学」ではなく「行きたい大学」への進学をめざす。※国公立大学の現役受験者数 R6年度には30人をめざす。(R1:24人 R2:17人 R3:24人)

※国公立大学及び関西5私立大学(関学・関大・同志社・立命・近大)への現役進学者数をR6年度には90人に引き上げる。(R1:84人 R2:61人 R3:63人)

イ 総合的な探究の時間にキャリアについての学びの機会を設け、自分の希望進路に関連づける。その際SDGsについての理解を深め、国際的な視点でのキャリア感覚も身に付けさせる。

2 「確かな学力」の育成とそのための教員の授業力の向上

(1) 自己の進路実現と学力の関連性を意識させ、学習意欲を向上させる。

ア 志望する大学等へ進学するために必要な学力を意識させ、授業第一主義を確立するとともに、家庭や放課後での自学自習を充実させる。

※学校教育自己診断 (生徒)「学校の授業は分かりやすい」の肯定率をR6年度以降も75%以上で維持する。(R1:69% R2:72% R3:77%)

イ 論理的思考力・課題解決力・自分の意見や考えをまとめて表現し伝える力を育成する。

※学校教育自己診断 (生徒)「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率をR6年度以降も80%以上で維持する。(R1:71% R2:77% R3:81%)

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業力向上に取り組む。

ア 大学入試改革に対応するためだけでなく、社会に出てから求められる力としても重要視し、ICTを活用した効果的・効率的な授業、生徒が積極的にアウトプットする機会を活かす授業の推進を図る。※生徒向け授業アンケートの「授業に興味・関心がある」肯定率をR6年度も80%以上を維持する。(R1:76% R2:79% R3:80%)

イ 他校での先進事例の視察や、教育センター等が主催する研修への積極的に参加し、そこでの取り組み内容を共有することで全体の授業力を向上させる。

ウ 教員用タブレットPCと1人1台端末の導入により更なるICTの有効活用について研究し、学びの充実を図る。

(3) 資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価の工夫を図る。

ア 全ての教科で新学習指導要領に対応した、観点別評価による「指導と評価の年間計画(シラバス)」を作成し、評価の方法を確立する。特に「主体的な学び」についての評価方法は引き続き検討を重ねる。

3 心豊かでたくましい人間性の育成

(1) 他者理解と多様性を尊重し、鋭い人権感覚を育成する。

ア 授業、HR活動などあらゆる教育活動を通して多様な人権課題を提示し主体的に学べる機会を設けることで、適切な人権感覚を養う。

※学校教育自己診断 (生徒)「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定率をR6年度には80%以上に引き上げて維持する。(R1:82% R2:76% R3:76%)

イ 学校行事・部活動・ボランティア活動・インターンシップ等への積極的な参加を図ることで、他者理解の姿勢を育む。

※学校教育自己診断 (生徒)「文化祭や体育大会は、活発で楽しい」の肯定率をR6年度も80%以上を維持する。(R1:86% R2:83% R3:70%)

ウ 海外研修と海外からの留学生の招聘を実施し、国際交流を通じて多様な文化を体験し国際的な視野を育成する。

(2) 情報リテラシー及び情報モラルを育成する。

ア 情報の授業において、専門家による講演で生徒が加害者にも被害者にもならない対策をとる。

イ 1人1台端末の導入を受け、情報社会で通用する人材を育成するため、ICT有効利用など教職員の情報に関する指導力を向上する。

(3) 安心できる学校生活を確保し、基本的な生活習慣の定着・改善を図るとともに、規範意識を向上させる。

ア 教員が寄り添いの姿勢で生徒に接し、生徒が相談しやすい指導体制を充実させることで、安全・安心な場を確保する。

※学校教育自己診断 (生徒)「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」の肯定率をR6年度には75%に引き上げて維持する。(R1:70% R2:73% R3:73%)

イ これまでの取り組みを進めることで、基本的な生活習慣(挨拶、時間、身だしなみ、交通マナー、美化活動、授業態度等)の改善・定着を図る。

※年間遅刻数をR6年度は2000回以下にする。(R1:2453回 R2:1783回 R3:2285回)

4 地域に開かれた学校づくりと魅力ある学校づくり

(1) 本校の教育活動について積極的に情報発信し、地域に活動の理解を広げるとともに、魅力ある学校にする。

ア 学校説明会の実施方法の工夫の一つとして在校生による中学校訪問を定着させ、生徒自身の成長を積極的に発信する。

イ HPの内容充実を図り、本校の魅力を発信することで、地域に活動の理解を広げる。

※学校教育自己診断 (保護者)「学校のHPは充実している」の肯定率をR6年度には70%に引き上げて維持する。(R1:68% R2:67% R3:63%)

ウ 保護者へのメール配信を定期的実施し、連携を深める。

(2) 地域との交流・連携を推進することにより、学校を活性化し、学校への信頼を高める。

ア 授業や部活動、生徒会活動などを通して、地域の活動等に積極的に参加し、小学校、保育所など各機関・団体との交流・連携を推進する。

イ 裏山を活用した環境教育を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する。

5 働き方改革による校務の効率化と教職員の健康増進

(1) 部活動指導・諸会議など多くの場面で校務の効率化を図り、勤務時間の短縮を図るとともに教職員間のよりよい人間関係を構築する。

※学校教育自己診断 (教員)「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合える職場の人間関係ができています」の肯定率をR6年度も80%以上を維持する。(R1:74% R2:74% R3:83%)

(2) 各分掌、学年での年間業務を整理し、校務の効率化を図ることで生徒と向き合う時間を確保する。

※学校教育自己診断 (生徒)「先生は熱心に授業や部活動その他の仕事にあたっている」の肯定率をR6年度以降も80%以上を維持する。(R1:77% R2:80% R3:83%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和4年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業はわかりやすい」（生徒）の肯定率が77%から72%と減少した。一人一台端末の導入後、全校上げて授業力向上の職員研修や授業研究週間などに取り組んだが、生徒のニーズ・層の変化にも注視したい。 ・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」（生徒）では81%から85%と着実に伸びており、授業内でアウトプットする機会を充実させていることがわかる。特に「総合的な探究の時間」では3年間を見通した計画を立てて学校を上げて取り組みを進めている。 ・「学習の評価は、テストの点数だけでなく生徒の努力や取組みの変化等を含めてされている」（生徒）は昨年度と同程度の84%であった。1年生だけを比較すると微減なので、新しい評価の影響かどうかは検討が必要である。 <p>【進路指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ホームルームなどで進路についての情報を提供されている」（生徒）において肯定率が92%から96%とさらに伸びている。本校では1年次から年間行事予定に入れて計画的に進路指導を行っている。それに加えて各大学等の最新の入試情報などは、随時学習支援クラウドサービスで生徒へ直接配信している。 ・「学校は、長期休暇中の講習や進学学習等を実施している」（生徒）の肯定率は昨年と同じ95%だった。生徒のニーズに応じた講習ができていますと判断できる。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談において「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」（生徒）で74%と昨年と同程度であった。教職員の、生徒に寄り添う姿勢は徹底できているが、今後も「いじめアンケート」「学校生活に関するアンケート」などを定期的実施して生徒のSOSを見逃さずにキャッチできる態勢を維持したい。 ・「学校の生活指導の方針について納得できる」（生徒）は、昨年と同程度の68%だった。集団が気持ちよく生活できるための最低限のルールであることを説明して、引き続き自主的な活動を引き出したい。 ・部活動関係の指標において、「部活動に積極的に取り組んでいる」は77%、「部活動を通じて成長している」が86%とこちらも昨年と同程度だった。本校は部活動加入率が8割を越え、運動部であれば近畿大会へ進出できた部が複数あり、文化部でも発表会など地域での貢献での場が多くあった。さらに高みを目指せるよう環境整備をしてバックアップしていきたい。 ・「人権の大切さを学ぶ機会がある」（生徒）でも78%と同程度だった。LHRでの学習や毎月の「人権だより」発行は例年通りに行っている。引き続きあらゆる教育活動ですべての生徒の人権が守られた状態を維持していきたい。 ・「文化祭や体育大会は活発で楽しい」では70%から83%と上がった。コロナの制約があったものの、体育大会、文化祭が予定通りに実施できたことが大きく影響している。 <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校へ行くのが楽しい」（生徒）では81%から83%に微増した。様々な場面での制約が残る学校生活ではあるが、体育大会や文化祭などの行事が概ね例年通りできたことから、例年並みの数値となった。 ・「学校は、学習と行事・部活動の両立を図るように指導している」（生徒）は81%、「学校は、教室や特別教室など授業を受けやすいよう整備されている」（生徒）も86%と昨年度と同程度となった。引き続き、学習環境を整え、部活動との両立を図る指導を続けたい。 ・「学校での授業や部活動を通じ、近隣の学校や地域との交流機会がある」（生徒）は41%から48%と上昇した。コロナが落ち着いたこともあり、昨年中止になった取り組みが復活したことが大きい。本校周辺には大学も含めて多くの教育施設があるので、生徒のニーズを見ながら新たな交流機会を模索していきたい。 	<p>【第1回 5月23日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校でも一人一台端末の態勢が整ったようだが、中学校では豊中市の予算で電波のある所ではどこでも繋がる端末を生徒に渡しているため、授業などの一斉配信がしやすい。毎日持ってくるように指導しており、充電は各自が自宅ですることが習慣付いている。 ・新しい観点別学習評価は、高校では年次進行のようですが、中学校ではすべての学年で一斉にスタートしたので、改めて状況などをお伺いしたい。 ・三点固定という初期指導は素晴らしいと思う。先生方の負担も大きいと思うが、是非とも続けて欲しい。高校に入って最初の段階で「高校とはこういうものだ」という話を徹底して行い、ギアチェンジをさせて3年間を過ごさせてほしい。 ・1年生の交通マナー講習についても是非続けて欲しい。近隣の方々も安全に過ごすことができることが大事であるので、横断歩道を渡るようにしっかりと指導して欲しい。 ・体育大会で応援披露をなくしたのは、生徒にとって楽しみが減ったのではないかと。学校行事は教育活動で重要なアクセントになるので、生徒の気持ちを受け止めて欲しい。 ・今年の体育大会が3年生の保護者しか見学できないのなら、当日の様子を見に来られない保護者に提供する機会を検討して欲しい。費用や機器のことまた個人情報のことがあるでしょうが・・・ ・土日に限定した話だが、「部活着登校」は賛成である。学校名が入っている服を着ているので、「刀根山生」であることをかえって自覚するのではないかと。 ・地元「刀根山地域」の歴史を次世代に継承するためにも、高齢者から聞き取るというような作業を高校生に手助けして欲しい。 ・屋上につけた横断幕が見えにくかったので、地上のフェンスに付けるなどして在校生が見やすい場所に移すよう検討してください。 <p>【第2回 11月29日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業が分かりやすいか」という質問の肯定率が下がったとのことですが、ICT機器の導入などで最近では確実に生徒にとってわかりやすい授業をされていると思う。もう少し長期のスパンで比較した方が良いのではないかと。 ・推薦入試と一言で言っても多岐にわたり、保護者としてはわかりにくい。保護者対象の進路説明会では、指定校推薦の校内選考の基準などととも詳しく説明をして欲しい。 ・中学校では進路希望調査を実施しているが、私学の授業料無償化などでここ数年は新たな傾向がみられる。近隣ということもあり刀根山高校を希望する生徒数の推移が気になっています。 ・中学生の高校選びでは、クラブ活動の様子が結構大きなポイントになっている。刀根山高校は近畿大会出場など実績を上げられ、クラブ活動が盛んなので、生徒が作成したクラブ活動紹介動画があるのならHPに掲載してもらってPRされてはどうか。 ・入試が近づいてくると欠席が増えるのは中学校でも同じで、コロナの感染不安もあって仕方がない面があると思います。 ・保護司をしていて弁護士の方と話をしていたが、成年年齢の引き下げに伴って18才が契約など様々な問題に巻き込まれるケースが現実には起きているのではないかと危惧している。学校でも機会をとらえて是非とも啓発活動に協力をしていただきたい。 ・私はPTA役員の経験者で現在も本校の後援会活動をしている。刀根山高校の生徒は、以前から優しくて、性格の良い生徒ばかりだと思う。先日ある方は在校生から「中学校時代はいじめられていたが、刀根山に来ていじめがないので本当にいい学校だ」と聞いたらしい。このような学校全体の雰囲気はこれからも引き継いでいただきたい。 <p>【第3回 2月20日開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響もあり社会全体で教育におけるICTの活用が進んだ。刀根山でも校務処理や無線投影装置に関する研修に取り組んでおられるとのこと、先生たちのレベルアップという意味でも良いことだと思います。 ・図書室に専属の司書がいなくてという状態に驚いている。いつ行っても図書館が開いているという理想の状況になっていないというのは、大変残念なことだと思います。教育予算の削減ということは理解できますが、子どもたちの読書活動の重要性と、生徒にとっての校内での居場所の確保という観点からもここは削るべきではないと思います。 ・刀根山高校の裏山は貴重な地域資源であり、公民館行事等で利用させていただいているので大変感謝しています。ただそういう行事に、生徒からは生物エコ部の生徒たちしか関わっていないので、学校全体としての取り組みにしていただければ有難い。 ・裏山に関しては刀根山高校の、また地域の誇りでもあるので、PTAとしても清掃活動で協力している。今年はPTAの予算で清掃用具を購入したので、今後もできる範囲で関わらせていただきたい。 ・地域連携については、よく取り組まれていると感じている。探究の授業では大阪大学の学生さんたちの協力を得ているとのこと。また、中庭のピオトープ作りなどは大阪大学や地域の小学校との連携を地道に続けられているので、実践がつながりを広げ、まさに地域が元気になっていると感じている。 ・探究の成果や裏山の魅力については上手にPRすれば、もっと刀根山高校の素晴らしさが発信できるのではと思う。 ・学校説明会に関しては、中学生が見学に来やすい時期・時間帯を考えて設定されたい。コロナ以前に実施されていた8月下旬のクラブ見学（又は体験）は学校をPRするよい機会と考えている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R3年度値]	自己評価
1 生徒が夢と志を抱き、希望する進路を実現させるための進路指導の確立	(1) キャリア教育の充実とその具体化 ・3年間の進路指導計画の更新 ・主体的に進路を切り拓く指導の充実	(1) ・各種進路ガイダンスを展開し学年、学校全体で課題を共有し、今後の進路指導に生かす。 ・共通テストなど大学入試に関する最新の情報を整理し、生徒の主体的な進路決定をサポートする。	(1) ・学校教育自己診断(生徒)「学校で将来の生き方について考える機会がある」肯定率90% [92%] ・学校教育自己診断(生徒)「HRなどで進路についての情報を提供されている」肯定率90% [92%]	・肯定率は95%。各種進路ガイダンスなどが順調に進行できたこともあり、目標を達成することができた(○) ・肯定率は96%。HR講演会に加えて学習支援クラウドサービスに随時進路情報を発信することも定着できた(○)
	(2) チャレンジする力と粘り強さの育成 ア 行きたい大学へ進学するためのガイダンス実施 イ 「総合的な探究の時間」との連動 ウ 資格試験受験の奨励	(2) ア・入学当初に高校生活や学習法について丁寧に説明するとともに、3点(起床時刻・自宅学習開始時刻・就寝時刻)を自立的にチェックし、適切な学習習慣を確立させる。 ・2学期段階での学習時間を伸ばす。 ・1年時から計画的に進路指導を進め、生徒・保護者向け進路講演会を実施して、大学のイメージを具体的にさせる。 イ・探究の授業でも自分の進路を考える機会を作り、夢や志を具体化させる。 ウ・1.2年生全員で英検受験することで、英語に対するより一層の学習意欲を引き出す。	(2) ア・1年生2学期段階での平日・休日の自宅学習時間を確保させる。 平日65分・休日95分[平日63分・休日95分] ・国公立大学現役受験者数25人[24人] ・国公立及び関西5大学への現役進学者数65人[63人] イ・第2学年の「総合的な探究の時間」で進路の理解が深まった。肯定的な評価65% [63.2%] ウ・英検準2級・2級の合格率(一次)55%、20% [53.1%、18.4%]	ア・自宅学習時間は平日52分、休日88分 初期指導としての1年生向け「3点固定指導」を電子化することで新しい形を模索した(△) ・国公立大学受験者数は23人。共通テストの難化の影響もあり受験者数が伸びなかった(△) ・国公立及び関西5大学への現役進学者数は73人で、こちらは達成できた(○) イ・肯定率は64.4%。目標には少し届かなかったが、2年生は地元豊中の地域課題を探究する過程で様々な職場訪問等を体験したので進路理解が深まった(△) ウ・英検準2級・2級の合格率(一次)は51.1%、14.3% 普段の授業での取り組みがあったが低下した(△)
	(1) 学習意欲の向上 ア 必要な学力の獲得と授業第一主義の確立、自学自習の充実 イ 論理的思考力・課題解決力・自分の意見や考えをまとめて表現し伝える力の育成	(1) ア・より分かりやすい授業展開と自宅学習の促進で学力向上を図る。 ・自宅学習課題を適切に出し、自学自習を支援する。 イ・各教科の授業の中で、ディベートやプレゼンテーションだけでなく、自分の考えをまとめてノートに記述するなどの時間も確保して「考え表現する力」を育成する。 ・特に探究の授業では、情報収集・討論・調査・まとめの活動を通してこれらの力の育成を図る。	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「学校の授業は分かりやすい」肯定率77% [77%] イ・学校教育自己診断(生徒)「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」肯定率80% [81%] ・第1学年の「総合的な探究の時間」における肯定的な評価85% [86%]	ア・肯定率は72%。ICTのさらなる利活用、三観点評価法について説明しているが、生徒の変化に対応できているかの検証が必要(△) イ・肯定率は85%。探究の授業だけでなく、多くの教科で意識してアウトプットの活動を取り入れている(○) ・肯定的な評価は87.3%。年間のプログラムが確立したことと、「TONE 究 Day」で3年生の全員発表を聞いたことで目標が明確化した(○)
2 「確かな学力」の育成とそれのための教員の授業力の向上	(2) 授業力向上 ア ICTを活用した効果的・効率的で興味・関心を持てる授業の推進 イ 教育センター主催研修等の内容の全体への共有 ウ 教員用タブレットPC導入によるICTの有効活用について研究	(2) ア・1人1台端末の導入に伴い、これまで以上に興味・関心を持てる授業を推進する。 イ・10年経験者研修等の取組内容を校内で共有し、職員研修として企画実施することで全体の授業力向上につなげる。 ウ・教員用のタブレットPCや1人1台端末の効果的な活用方法に関する授業見学週間と研究協議を実施し、全体の授業力向上につなげる。	(2) ア・生徒向け授業アンケートの「授業に興味・関心が持てるようになった」肯定率80% [80%] イ・授業力向上に向けた職員研修と協議を年に2回実施する ウ・学校教育自己診断(教員)「コンピューターなどの情報機器が各教科の授業などで活用されている」肯定率95% [98%]	ア・肯定率は82.0%。学習支援クラウドサービスを活用することで、授業内容を深めたり、課題の提示・提出などに使えるようになった(○) イ・初任者と10年経験者の研究授業を複数回実施し、該当教科を中心にそのつど研究協議をして全体の授業力向上につなげられた(○) ウ・肯定率は97%。教員の端末と教室のプロジェクターを無線で接続できる機器を各教室に設置することで利便性を高めて、授業力の向上につなげた(○)
	(3) 多面的・多角的な学習評価の工夫 新学習指導要領に対応した観点別評価の実施	(3) ・第1学年で観点別評価を実施し検証の上、来年度以降につなげる。 ・観点別評価の中でも、特に主体的な学びの評価方法については教科と全体での議論を継続して行う。	(3) ・学校教育自己診断(教員)「本校では評価のあり方について話し合う機会がよくある」肯定率80% [81%]	・肯定率は78%。新教育課程に対応した観点別評価については導入初年度ということもあり、各教科での議論を重ねて来年度に繋ぐ(△)
3 心豊かでたくましい人間性の育成	(1) 他者理解と多様性の尊重 ア 多様な人権課題の提示 イ 各種行事への積極的な参加 ウ 国際交流等による国際的な視野の育成	(1) ア・人権教育推進委員会と学年・教科が連携し、生徒が主体的に学べるような様々な人権課題を提示する。 イ・学校行事・部活動・ボランティア活動・インターシップ等への積極的な参加を図る。 ウ・コロナ禍で海外での語学研修の実施ができない状況なので代替プログラムを企画実施する。	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある」肯定率80% [76%] イ・学校教育自己診断(生徒)「文化祭や体育大会は活発で楽しい」肯定率75% [70%] ウ・代替プログラムの参加者アンケートの満足率95% [97%]	ア・肯定率は78%と少し届かなかったが、昨年より向上した。あらゆる教育活動において人権を大切にしており、HR活動でも学ぶ機会を設けている。また、定期的に人権だよりを発行しているので生徒は安心して学校生活を送っている(○) イ・肯定率は83%。中止になった前年度と違って文化祭、体育大会とも制限があった中でも実施できたので肯定率も増加した(○) ウ・今年度も海外研修に替えて、希望者によるグローバル体験プログラムを実施した。満足度は100%(○)

	<p>(2) 情報リテラシー及び情報モラルの育成 ア 生徒が加害者にも被害者にもならないための対策の実施 イ 情報社会への対応</p>	<p>(2) ア・SNS等の利活用について、教科「情報」の授業において、専門家を招聘して1年生に講義講演を行う。 イ・1人1台端末の導入に伴い、情報部主導で教職員の専門性を高めるための情報に関する研修を実施する。</p>	<p>(2) ア・1年生対象に専門家による講義講演を1回は実施する。 イ・学校教育自己診断(教員)「本校では生徒の個人情報保護の体制が確立している」 肯定率 85% [86%]。</p>	<p>ア・1年生全クラスで情報Ⅰの授業で外部講師による「安全教室～高校生を取り巻く環境～」を実施して情報リテラシーの向上に努めた (○) イ・肯定率は78%。情報部からICT機器使用上の注意点を頻繁に発信するとともに、職員会議等で校長より本校情報セキュリティポリシーの確認をしている (△)</p>
	<p>(3) 安心できる学校生活の確保 ア 教育相談体制の充実 イ 基本的な生活習慣の改善と定着</p>	<p>(3) ア・教育相談委員会が中心となり生徒情報の共有に努め、必要に応じてSCの指導助言や外部機関と連携することで、教育相談体制の一層の充実を図る。 イ・基本的な生活習慣の定着のため、これまでの遅刻指導を継続して実施する。</p>	<p>(3) ア・学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」 肯定率 73% [73%] イ・遅刻数を前年度より減少させる。 2285件以下 [2285件]</p>	<p>ア・肯定率は74%。毎週1回の教育相談委員会で配慮を必要とする生徒を中心とした情報共有を行い、SCや外部機関に繋ぐなど学校として組織的に対応できている (○) イ・年間の遅刻総数は2475件と昨年より増加した。学校生活全般では、コロナの制限が少なくなったが、一部に不安感を持つ生徒がいた (△)</p>
<p>4 地域に開かれた学校づくり 魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 本校の教育活動の積極的な情報発信 ア 在校生の中学校訪問 イ HPの充実による魅力の発信 ウ 定期的なメール配信による保護者との連携強化</p>	<p>(1) ア・在校生(1年生)による中学校訪問を実施し、生徒の成長や生の声を提供して本校の魅力を発信する。 イ・HPの更新頻度を上げ、部活動等の最新の本校の情報を伝えることで魅力を発信する。 ウ・毎週末にメールマガジンを配信し、学校の様子を保護者にお知らせする。</p>	<p>(1) ア・生徒(1年生)の出身中学校訪問を90%以上 [一] イ・学校教育自己診断(保護者)「学校のHPは充実している」肯定率 65% [63%] ウ・学校教育自己診断(保護者)「学校のメールマガジンを活用している」肯定率 85% [87%]</p>	<p>ア・コロナ感染拡大防止の観点から今年度も生徒による中学校訪問は実施しなかったが、代わりに教員による中学校訪問の機会を増やした (△) イ・肯定率は62%。昨年度以上に校長ブログやクラブ活動の様子を発信したが、目標に届かなかった (△) ウ・肯定率は88%。こちらは毎週末の定期発信が定着し、緊急時の連絡にも対応できている (○)</p>
	<p>(2) 地域との交流・連携の推進 ア 地域の学校や保育園などとの交流・連携の推進 イ 裏山を活用した環境教育の推進と地域交流</p>	<p>(2) ア・地域の学校や福祉施設等との連携事業や地域との防災行事などに取り組む。 ・生徒のボランティア活動をサポートする。 イ・裏山等の刀根山の特徴を活かし地域連携を推進する。コロナの影響で実施困難な場合は、HP等を利用して引き続き本校の魅力を発信する。</p>	<p>(2) ア・学校教育自己診断(教員)「本校では近隣の学校や地域などとの交流の機会がある」 肯定率 70% [67%]。 イ・年間を通して、地元蚩池公民館の主催行事に協力する。生物エコ部の活動と連携させて、全校生徒にも裏山の恩恵を還元する。</p>	<p>ア・肯定率は68%。目標には少し届かなかったが、感染対策を取ったうえで、これまで築いてきた近隣地域との交流活動は継続でき、このような状況下でも実施したことに地域から評価をいただいた (○) イ・蚩池公民館行事としては「笥掘りと竹のワークショップ」「晩秋の里山を楽しむ」「門松を作ろう」の行事を生物エコ部の協力のもと実施できて、本校の魅力を発信することができた (○)</p>
<p>5 働き方改革による校務の効率化</p>	<p>(1) 校務の効率化と教職員の健康増進 (2) 各分掌、学年の年間業務の整理</p>	<p>(1) ・全教職員で協力して顧問を分担することで、生徒の部活動を保障する。 ・働き方改革の観点から、諸会議の運営方法を見直し、教職員の長時間勤務の縮減を図り、健康増進につなげる。 (2) ・学校経営委員会主導のもと、学校の進むべき方向を見定め、各分掌の役割を整理し業務を見直すことで校務の効率化につなげる。</p>	<p>(1) ・部活動に係る活動方針を遵守し、年間における休養日を105日以上確保する。 ・学校教育自己診断(教員)「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合える職場の人間関係ができています」 肯定率 80% [83%]。 (2) ・学校経営委員会を定期的に開催して、学校の課題を検討し、効率化できる業務を全体に提案してできるところから着手する。</p>	<p>(1) ・部活動の大坂モデルの概要が公表されたが、本校は単独でもチームを組むことができるクラブが多く、年間の活動を計画的に組んで進めている (○) ・肯定率は80%。諸会議の運営方法を見直して長時間勤務の縮減を図っているが、80Hを越える職員が一定数いる。多忙化に拍車がかかり、気軽に相談できる時間自体がない状況である (○) (2) ・管理職、首席+αで構成される「学校経営委員会」で校内の諸課題と今後の展望等について議論を重ねている (○)</p>